

会長就任のご挨拶

日本微生物資源学会会長 大熊盛也

本年4月から会長を仰せつかりました。本学会は、前身である日本微生物株保存機関連盟の発足からまもなく70年を迎える歴史と伝統があります。これまでの学会活動に貢献いただいた諸先生方と、学会員の皆様に深く感謝申し上げるとともに、今後の学会の発展のために、微力ではありますが力を尽くすことができると考えております。

ゲノム・オミックス解析技術に代表されるように、昨今の研究技術の進展は著しく、原核生物では新種記載の際にゲノム配列情報の決定と比較が求められるようになり、系統分類学も急速に様変わりしつつあります。また、ヒトマイクロバイオームや環境・生態系の微生物の研究が大規模に進められ、微生物多様性に関する理解も深まっています。我々にとって異分野の動物・植物の研究者は、動植物の生育と健全性を左右する共生微生物に大きな関心を示しています。このような状況下、新しい技術や研究の動向をとらえつつ、専門的知識や技術に基づいて多様な微生物を体系的に系統分類し、性状が明らかな分離培養微生物株を保存・維持して利用可能にすることは、新しい技術だけでは解明できない研究を支える基盤として、今後ますます重要になっていくと考えられます。本学会のめざすべき方向性のひとつはそこにあるように思われます。

学会をめぐる諸課題は決して少なくはありませんが、学会役員や会員の皆様のご協力を仰ぎつつ対応し、本学会のステータスの向上や発展に努め、社会貢献につなげることができればと思います。ご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

会長退任のご挨拶

日本微生物資源学会前会長 中桐 昭

2019年3月で本学会会長を退任いたしました。任期中、学会運営にご理解、ご協力をいただいた理事・監事の皆様、会員の皆様に御礼申し上げます。

2年前に会長に就任して、本学会の喫緊の課題が財政であることは明白でした。以来、節減できるところはすべて削減するという方針の下、理事の皆様のご協力を得て、学会誌から大会要旨ほかをホームページ(HP)に移すなど、HPと学会誌の有効活用と経費削減に取り組みました。しかし、本学会の顔でもあるJSMRS総合カタログの再構築は必要な事業として、赤字決算となることを承知のうえで実施いたしました(この事業は2019年度で完了予定です)。一方、財政再建のもう一つの柱である収入の増加策につきましては、シンポジウムの開催や書籍の刊行などの企画はできましたが、いずれも未実施のままでした。私の力不足を実感しており、会員の皆様にお詫びを申し上げます。次期の会長以下新執行部の皆様により、収入の増加による安定した財政運営が実現されることを祈念しております。このような厳しい財政の中でしたが、長谷川基金の募金におきましては、会員の皆様から多大なご支援を賜り、多額のご寄付をいただきました。これにより、今後20年は基金による顕彰活動が可能になりましたこと、この場をお借りして、改めて会員の皆様に御礼申し上げます。

最後に、本学会が微生物培養株の保存と分類研究を両輪とするという理念の下に、微生物研究者にとって必要不可欠な学会であり続けることを祈念して、退任の挨拶とさせていただきます。